

# 平成 24 年度 園芸特産業関係功労者表彰 受賞者功績概要

(敬称略)

こにし せんいち

## 小西 専一 (北佐久郡御代田町)

昭和 40 年代にサラリーマンから転身して花き栽培に取り組み、50 年代からは地域の農家とグループを作り、共選共販による市場出荷体制を確立した。また、スプレーカーネーションを県内でいち早く導入するなど、産地の育成に貢献された。

昭和 59 年には、地元農協にカーネーション専門部を立ち上げ、平成 9 年まで初代部会長として、市場と連携した独自出荷規格の導入による信頼される産地づくりや、部会員のほ場巡回による技術向上と経営安定に取り組むなど、花きの生産振興に大きく貢献された。

いいづか よしゆき

## 飯塚 芳幸 (上田市)

昭和 50 年以降、一貫してぶどう栽培に取り組み、徹底した土づくりや品種特性に即した樹勢管理等により高品質ぶどうを安定生産し、現在では有名専門店でギフト品として販売されるなど、県産ぶどうの名声を高めた。

巨峰の優良系統の選抜や、独自理論による栽培技術のマニュアル化に取り組むとともに、(財)長野県果樹研究会ぶどう部会長として、自らの畑を提供して高接ぎによる品種更新方法を普及するなど、県産ぶどうの生産振興に貢献された。

また多くの視察者や研修生を受け入れ、積極的に技術指導を行うなど、県内外のぶどう生産者の技術向上や後継者育成にも大きく貢献された。

ごみ とくお

## 五味 徳雄 (茅野市)

昭和 40 年代から角寒天の製造・販売及び県寒天水産加工業協同組合での活動を通じて、寒天の振興に貢献された。

生産面では、原料価格の高騰や輸入が増大する中、率先して本物志向の天然角寒天を生産し、業界の取るべき道を示した。また寒天組合では、販売促進部門の責任者として、各種イベントでの P R や番組制作の提案などにより、平成 17 年頃からの寒天ブームに関与し、平成 19 年から 4 年間は代表理事組合長を務めるなど、角寒天の生産振興や消費拡大に大きく貢献された。

あ る が ま さ き

## 有 賀 正 喜 (伊那市)

平成 11 年にオープンし、「第 30 回日本農業賞大賞」を受賞した「はびろ農業公園みはらしファーム」の中心的推進者として、受入施設の設置や体験メニューの充実等に取り組み、県下屈指の大規模農業公園の設立、発展に貢献された。

また、同ファームの収穫体験メニューの中核となる観光いちご園を運営する「羽広いちご生産組合」を仲間 7 人と設立し、初代組合長として、冬季のいちご価格の高い時期でもいちご狩り園として開園するなど、観光客のニーズを一番に考えた運営を行い、同ファームの発展及び観光農業の振興に貢献された。

かぶしきがいしゃ

## 株式会社 フラワー・スピリット (松本市)

昭和 62 年に活動を開始し、平成 23 年には松本市及び近隣市村の 17 戸により法人化されたランキュラス、トルコギキョウなどを年間 260 万本出荷する組織。独自に開発した仕立て方法による新たな用途・需要の創出や、種苗会社との共同研究による品種育成など、その取り組みは世界的にも注目されている。

本年オランダで開催された「フロリアード 2012」の品種コンテストにおいては、上記 2 品目が最優秀賞となる 1 席を受賞され、本県花き生産のレベルの高さを世界に示すなど、花き産業の振興に大きく貢献された。

お お ぶ ち ち え こ

## 大 淵 智 恵 子 (安曇野市)

昭和 50 年代から現在まで天蚕を飼育するとともに、60 年代からは生系の座繰り繰系(生糸生産)にも従事するなど、天蚕の振興に貢献された。

天蚕糸は淡緑色で独特の光沢と優美な風合いを持ち、その希少性から「繊維のダイヤモンド」などと呼ばれるが、繭により太さが異なり、また部位により色が異なるため、太さや色を均一な糸にするには、高い繰系技術が必要とされている。

氏の手がけた糸は品質が高く「穂高天蚕糸」として織物産地から高い評価を得ており、この技術を後継者に伝承するなど天蚕振興に大きく貢献された。